

令和4年度介護福祉研究センター事業報告

I. 会議関係

1. 運営委員会

1. 運営委員会

1) 第1回 令和4年4月12日(火)

- 〔議事内容〕・運営委員会の開催日時
・センター事業担当者の確認
・研究員任期継続確認
・第3回作文コンクール事務分掌
・介護福祉セミナーの確認
・定例研究会(第48・49回)
・介護・福祉研究第8号の配布状況

2) 第2回 令和4年5月24日(火)

- 〔議事内容〕・定例研究会
・前期センター会議について
・第3回介護作文コンクール(広報、後援団体、参加賞、ちらしなど)
・新規研究員の承認
・介護・福祉研究第9号について
・研究員メーリングリスト作成について

3) 第3回 令和4年6月21日(火)

- 〔議事内容〕・前期センター会議
・第48・49回定例研究会
・センター紀要「介護・福祉研究」第9号執筆希望者募集
・第3回作文コンクール(小中学校依頼文書発送、協賛金、学内審査委員など)

4) 第4回 令和4年7月19日(火)

- 〔議事内容〕・介護作文コンクール(学校別学年別管理、賞状、後援団体賞、表彰式等)
・センター紀要「介護・福祉研究」第9号受付状況
・編集委員会について
・第49回定例研究会(津市障がい福祉課の招待)

5) 第5回 令和4年8月24日(水)

- 〔議事内容〕・「介護・福祉研究」第9号の執筆者の決定
・新規研究員の承認
・第49回定例研究会(昼食の持ち方、行事等実施計画書および代替案)
・運営委員会の日程協議(9月、10月)
・第3回作文コンクール(一次審査・二次審査の準備、表彰式、副賞、参加賞等)

6) 第6回 令和4年9月21日(水)

- 〔議事内容〕・介護作文コンクール(受賞通知、表彰式役割、ボランティア、賞状後援団体押印、朗読のお願い、表彰式広報依頼など)
・第50回定例研究会について
・全障研

7) 第7回 令和4年10月27日(木)

- 〔議事内容〕・第3回作文コンクール(表彰式役割、当日タイムスケジュールなど)
・後期センター会議および運営委員会のスケジュール
・定例研究会(第50回)
・全障研東海地区研究集会(Zoom会議)の開催

8) 第8回 令和4年11月10日(木)

- 〔議事内容〕・第3回作文コンクール(表彰式最終確認など)
・介護福祉セミナー
・後期センター会議および第50回定例研究会

9) 第9回 令和4年12月22日(木)

- 〔議事内容〕・全国障害者問題研究会 東海ブロック研究集会について
・第51回定例研究会
・令和5年度介護福祉セミナー
・第3回介護作文コンクール文集作成
・介護・福祉研究第9号の工程確認

10) 第10回 令和5年1月31日(木)

〔議事内容〕・全国障害者問題研究会 東海ブロック研究集会について

- ・第51回定例研究会
- ・第3回介護作文コンクール文集作成
- ・任期满了のセンター研究員の継続確認の作業について
- ・介護・福祉研究第9号の進捗状況
- ・令和5年度、センターの運営について

11) 第11回 令和5年2月20日(月)

〔議事内容〕・全国障害者問題研究会 東海ブロック研究集会について

- ・第3回介護作文コンクール文集作成
- ・研究員継続確認及び新規研究員について
- ・年次報告書の作成について

12) 第12回 令和5年3月24日(金)

〔議事内容〕・全国障害者問題研究会 東海ブロック研究集会(報告)

- ・介護・福祉研究第9号納品と作業
- ・第3回介護作文コンクール文集の配布と挨拶回り
- ・研究員継続
- ・次年度のセンター課題の共有

2. センター会議

1) 前期センター会議 令和4年6月21日(火) 17:00~17:30 参加者15名

於) 高田短期大学2号館カフェテリア

- ・令和3年度事業報告(案)
- ・令和4年度事業計画(案)
- ・令和4年度予算報告
- ・全国障害者問題研究会三重支部との連携事業について
- ・新規研究員の紹介 前田 彩(学識経験者)
鈴木 美咲(本学卒業生)

※6月末時点在籍研究員数: 49名



鈴木研究員辞令交付の様子

2) 後期センター会議 令和4年11月30日(水) 18:30開催予定

於) 高田短期大学介護実習室

- ・令和4年度事業経過報告(案)
- ・令和5年度事業計画(案)
- ・令和5年度予算要求(案)

II. 研究活動

1. 定例研究会

介護福祉研究センターでは、地域の福祉施設等の関係者や介護福祉関係で活動していただいている方々、卒業生を研究員に招き、2022年9月現在49名(内卒業生22名)の研究員が在籍しています。年間4回の定例研究会を開催し各分野の情報交換を行い、地域に還元できるように学びあっています。

場所は、原則介護福祉研究センターまたは介護実習室で行っています。

1) 第48回定例研究会 6月21日(火) 17:40~19:30 参加者 16名

- ・テーマ「地域包括支援センターの現状と課題ー亀山市における実践を通してー」

・発表者：山下 千晶研究員

・内 容：精神保健福祉士・社会福祉士・公認心理士の資格をお持ちの山下千晶研究員に、現在お勤めの社会福祉法人安全福祉会 亀山第2地域包括支援センターもくれんについての実践を通したお話をいただきました。亀山市の高齢化率から地域包括ケアが求められる背景、権利擁護の実態など、非常に興味深いお話でした。

今後、日本の高齢化や人口減少など様々な課題に対し、地域包括ケアシステムがどうあるべきか、また、高齢者の精神的な不調を察知できる体制づくりなどの課題を考える機会となりました。



2) 第49回定例研究会 9月12日(月) 11:30~14:30 参加者 17名

・テーマ「聖マッテヤ心豊苑の紹介、介護福祉士としての仕事の現状など」

・発表者：北川 なみ(本学卒業生)

・内 容：カフェテリアでの軽食の後、介護棟へ移動し、障害者支援施設 聖マッテヤ心豊苑療護グループサブリーダーの北川なみさんから聖マッテヤ心豊苑の取り組みについてお話をいただきました。職員対象の腰痛検査の実施、新型コロナウイルス感染拡大防止策、介護職員による医的ケア、福祉用具の取り扱い、コロナ禍での年間行事の工夫、夜間に利用者の安全を守る眠りスキンの活用、スヌーズレンでの活動などの特徴的な取り組みについてのお話がありました。意見交換では様々な質問が寄せられ、腰痛検査の方法や目的、スヌーズレンの対象になる方の選び方、福祉用具の取扱いは現場でないと分からないことがあるので学校では基本的なことを押さえるのが大切であるということの補足が講師からありました。

今回は、津市障がい福祉課主幹の堀川氏にもご出席をいただきました。津市の障害者入所施設は増えていないが障害者は増えているため待機者も多いこと、入所施設は障害者の「終の棲家」として想定されておらず国は地域移行を推奨しておりグループホームを増やす方向である。現在、津市には重度訪問介護のサービスを受けながら16名の障害者が在宅でひとり暮らしをされているとの状況もお聞きしました。本学については、介護福祉研究センター定例研究会が今回で49回となり多く開催してきたことに興味をもっていただきました。また、介護福祉コースでは1,850時間のカリキュラムがあり学生は一生懸命学んでいることを知っていただいたため知的障害・身体障害それぞれの知識をもつ人を育てていただければとのお話をいただきました。

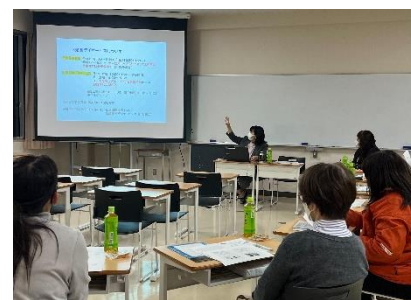


3) 第50回定例研究会 11月30日(水) 17:00~18:30 参加者13名

・テーマ「子どもと職員の育ちあいー障害児通所支援事業所での実践からー」

・発表者：中嶋 麻衣研究員

・内 容：本学子ども学科助教である中嶋麻衣先生よりお話をいただきました。中嶋先生は、今年度から本学に着任され、昨年度までは2か所の障害児通所支援事業所に9年間勤務されておりました。この9年間の実践を振り返り子どもたちと関わるうえで、支援する側は先生ではなく、子どもたちや保護者の伴走者として子どもの発達に関わっていくことが大切であること、また、子どもや保護者の思いやニーズに沿った支援をすることや子どもたちが様々なことを経験できる場にしていくことが求められるとお話がありました。今後の展望として、県内の発達支援がどのように整備されてきたのか、子ど



もについての発達支援の意義等について研究していきたいとのことでした。

4) 第51回定例研究会 令和5年2月16日(木) 17:00~19:00 参加者 11名

・テーマ「精神科病院 デイケアでの地域生活支援実践報告」

・発表者：平田 育代研究員

・内容：介護福祉士、精神保健福祉士である平田育代研究員よりお話をいただきました。20代から入退院を繰り返してきた統合失調症の女性の支援担当となり、退院から自宅での支援、その後の経過報告を退院1年後の様子までまとめてご報告いただきました。

精神障害者の生きづらさを理解することは、支援者の想像をはるかに超えていたことが関わりを通してわかったこと。長期間の関りの中で、その人の生きづらさや課題が少しずつ浮き彫りになってきたことに感動したと話されていました。私たちの当たり前が当たり前であることの難しさを知ること、それがすべての人々の理解に繋がってほしいとお話されていました。



Ⅲ. 実施事業

1. 介護福祉セミナー

1) 介護福祉セミナー

令和4年12月18日(日) 13:30~15:30 参加者 25名

テーマ「ミュージックセラピー～聴いて感じて、リフレッシュ～」

講師：長谷川 恭子研究員、杉本 佳代(ソプラノ歌手)

長谷川研究員からミュージックセラピーについて講義を受け、トーンチャイムという楽器を使い、一人ひとりが自分の音を担当しながらグループ全員で音楽を奏でる体験を楽しく行いました。また、ソプラノ歌手の杉本さんからはクリスマスにちなんだ生歌をご披露いただいたり、エッグシェーカー等を用いて参加者と合唱したりと心が癒されリフレッシュしながら学べ、あっという間の2時間でした。



長谷川研究員のトーンチャイムでの合奏



杉本さんのすてきな歌声

2. 全国障害者問題研究会 東海ブロック研究集会 in MIE

令和5年3月18日(土) 9:00~16:00 本部会場：高田短期大学

ZOOMによるオンライン同時双方型開催を行いました。当日申込者50名

大会実行委員長松山和幸氏、本学梅林久高学長の挨拶に始まり、基調提案を全障研三重支部支部長千草篤麿氏、記念講演「目からウロコの実践の視点—子どもの発達と障害を学ぶ—」と題して赤木和重氏(神戸大学大学院人間発達環境学研究科准教授)が講師として登壇しました。

11:20研究報告が辻和美氏(特別支援学校聖母の家学園)からあり、その後、文化行事ビ

デオ構成〔もっと豊かに生きていきたい～わたしたちのねがい・思い～〕が行われました。

午後は、「就学前」「学齢期」「青年・成人期」の3つの分科会に分かれ、話題提供や討議が行われました。

本センターの中川センター長、川喜田研究員、寺家研究員も運営に加わり、主にZOOM環境の整備やスムーズな大会進行に協力しました。

Ⅳ. 介護の未来を考えようーあなたの思いやりを言葉にしてみようー作文コンクール

高田短期大学主催事業である、第3回（令和4年度）介護の未来を考えようーあなたの思いやりを言葉にしてみようー作文コンクールの企画運営協力を行いました。

第2回文集を作成し、第3回（令和4年度）作文コンクールの募集を県内小中学生向けに行う際に連携協定市を中心に県内介護福祉施設等、各関係機関へ配布し広報しています。

第3回は、令和4年9月15日の募集終了までに690作品（小学生200、中学生490）の応募がありました。

対象者：三重県内の小学校に通う5・6年生および中学生

表彰式：令和4年11月12日（土）10：30～11：30開催

※最優秀賞と優秀賞は、介護福祉研究センター紀要「高田短期大学介護・福祉研究」第9号に掲載予定



第3回（令和4年度）審査結果

小学生の部 【応募数 200】

賞 名	名 前	学年	学校名	題名(テーマ)
最優秀賞	きくま たいき 佐久間 泰希	5	亀山市立川崎小	介護の未来について
優 秀 賞	はやし ゆあ 林 優杏	6	亀山市立井田川小	介護の未来を考えよう作文
	はっとり ここな 服部 心夏	6	亀山市立亀山西小	介護を通して分かったこと
優 良 賞	きの ほのか 佐野 穂乃香	5	亀山市立亀山東小	介護の未来を考えよう
	とうの りん 東野 鈴	6	亀山市立井田川小	介護を受ける人だけでなく、 介護する人も住みやすい街
	かなたに そうた 金谷 颯汰	6	亀山市立加太小	介護の未来を考えよう作文
高田短期大学学長賞	たかなし えいせん 高梨 永扇	6	亀山市立亀山西小	介護の未来を考えよう作文
三重県社会福祉協議会 会長賞	えとう りおな 江藤 璃緒奈	5	亀山市立川崎小	介護の未来を考えよう
三重県介護福祉士会会 長賞	さか ゆうり 坂 侑莉	6	亀山市立関小	介護の未来を考えよう作文
三重県老人福祉施設協 会会長賞	たにもと かいと 谷元 海斗	5	亀山市立川崎小	介護の未来を考えよう
全国障害者問題研究会 三重支部支部長賞	かたおか しゅん 片岡 俊	6	亀山市立神辺小	介護の大切さとは

中学生の部 【応募数 490】

賞 名	名 前	学年	学校名	題名(テーマ)
最優秀賞	かわしま はるあ 川嶋 悠愛	3	高田中	新しい介護のあり方
優 秀 賞	いけだ あずさ 池田 梓	1	鈴鹿市立創徳中	これからの介護
	にしかわ えいた 西川 瑛大	1	亀山市立中部中	家族と介護
優 良 賞	すぎの かのん 杉野 嘉音	3	亀山市立関中	介護を考える
	かたやま しゅんと 片山 竣翔	3	高田中	地域における介護
	おさむら まいか 長村 舞香	3	鈴鹿市立大木中	介護について
高田短期大学学長賞	さくた わたる 作田 航	1	高田中	身近のかいご
	なかむら ひな 中村 日南	3	津市立白山中	「ことば」の処方箋
三重県社会福祉協議会 会長賞	あたらし かいせい 新 開晴	2	津市立一身田中	介護を知ろう
三重県介護福祉士会会 長賞	いけむら かなた 池村 奏太	2	津市立一身田中	介護について
三重県老人福祉施設協 会会長賞	たなか れいな 田中 伶奈	1	亀山市立中部中	介護の未来を考えよう作文
全国障害者問題研究会 三重支部支部長賞	みやざき ことあ 宮崎 琴愛	3	鈴鹿市立大木中	介護は一つじゃない

第2回介護作文コンクール表彰式

令和4年11月12日(土)、三重県社会福祉協議会会長、三重県老人福祉施設協会会長を来賓に迎え、本学講堂にて表彰式が開催されました。式典では、最優秀賞者はじめ5名の受賞者に朗読披露していただきました。その様子は、夕方の三重テレビ放送ニュースで放映されました。



受賞者集合写真



中日新聞記事

令和4年11月13日(日)

V. 研究成果の発行

1. 介護福祉研究センター紀要「高田短期大学介護・福祉研究」第9号(令和5年3月発行)

執筆希望書を編集委員会で協議し執筆者を決定しました。研究論文1編、実践報告3編に原稿依頼しました。

対象で小学生は八百字、中学生は千二百字程度の長さで、内容は介護の現場や体験、介護の未来などについて、自由に記述してください。今回は六百字以内の応募を希望します。(松本 書明)

種別	テ　　マ	執筆者	頁
研究論文	介護実習でのレクリエーション実践及び介護福祉士養成校に求められる知識・技術	長谷川恭子	10
実践報告	認知症高齢者への介護実践（Ⅰ）　－関わり続けることの意義－	千草　篤磨 出馬　宏海 中村　匠 前田　彩	10
実践報告	精神科病院　デイケアでの地域生活支援　実践報告	平田　育代	10
実践報告	高齢の母とその息子への支援（仮）	山下　千晶	5